

高知県から得られたテンジクダイ科魚類 10 種の記録

橘 皆希¹・岡村恭平^{1,2}・松永 翼¹・遠藤広光¹

Author & Article Info

¹ 高知大学理工学部海洋生物学研究室 (高知市)
MT: miibai.harima@gmail.com (corresponding author)
TM: kanokouo283@gmail.com
HE: endoh@kochi-u.ac.jp
² 高知県林業振興・環境部 (高知市)
nnaji.tosa@outlook.jp

Received 18 October 2024
Revised 27 October 2024
Accepted 28 October 2024
Published 29 October 2024
DOI 10.34583/ichthy.48.0_55

Minaki Tachibana, Kyohei Okamura, Tsubasa Matsunaga and Hiromitsu Endo. 2024. First specimen-based records of 10 species of the family Apogonidae from Kochi Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 48: 55–63.

Abstract

Ten species of apogonid fishes were collected from Kochi Prefecture, Japan: two specimens [26.8–29.4 mm standard length (SL)] of *Apogon crassiceps* Garman, 1903, three (16.0–35.8) of *Foa fo* Jordan and Seale, 1905, seven (66.6–79.2) of *Nectamia bandanensis* (Bleeker, 1854), six (27.9–64.5) of *Ostorhinchus cookii* (Macleay, 1881), 14 (26.6–68.6) of *Ostorhinchus taeniophorus* (Regan, 1908), two (30.4–56.8) of *Ostorhinchus* sp. L, one (45.6) of *Pristiapogon exostigma* (Jordan and Starks, 1906), 14 (37.6–95.8) of *Pristiapogon kallopterus* (Bleeker, 1856), one (75.7) of *Pseudamia hayashii* Randall, Lachner and Fraser, 1985, and two (19.0–21.1) of *Siphamia tubifer* Weber, 1909. These specimens represent new records of 10 species from Kochi Prefecture (first specimen-based records of *O. taeniophorus* and *S. tubifer*) and the northernmost records for *N. bandanensis*.

テンジクダイ科魚類 (Apogonidae) は、体が側扁する、眼と口が大きい、背鰭を 2 基もつなどの特徴を有し、雄が口内保育を行う生態が知られている (Mabuchi et al., 2014; 吉田・馬淵, 2022)。また、本科魚類は夜行性であり、一部の種では共生細菌や餌生物由来する化学発光物質を利用した発光器をもつ (Gon and Allen, 2012; 林, 2013; Mabuchi et al., 2014; 吉田・馬淵, 2022)。

2000 年代以降、本科のうち、10 亜属 100 種以上を含むテンジクダイ属 *Apogon* Lacepède, 1801 は、分類体系の再検討が進められた (馬淵ほか, 2015)。それによ

り、*Zoramia* Jordan, 1917, *Nectamia* Jordan, 1917, および *Apogonichthyoides* Smith, 1949 などの属は、亜属から格上げされた (Greenfield et al., 2005; Fraser, 2008; Fraser and Allen, 2010; 馬淵ほか, 2015)。また、Mabuchi et al. (2014) は、本科内の 33 属・亜属 120 種にのぼる網羅的な分子系統解析により分類体系の再検討を行い、馬淵ほか (2015) は Mabuchi et al. (2014) などが変更した新しい分類体系に対応する標準和名を検討した。

本科魚類は世界に 4 亜科 14 族 39 属約 360 種が分布し、おもに沿岸の岩礁域やサンゴ礁域に生息する (Mabuchi et al., 2014; 馬淵ほか, 2015; 吉田・馬淵, 2022)。日本国内では、3 亜科 13 族 26 属 107 種が記録されている (馬淵ほか, 2015; 吉田・馬淵, 2022; 本村, 2024)。

著者らが行っている高知県沿岸の魚類相調査、および高知大学理工学部海洋生物学研究室 (BSKU) 所蔵の高知県産魚類の標本調査において、アカフジテンジクダイ *Apogon crassiceps* Garman, 1903, タイワンマトイシモチ *Foa fo* Jordan and Seale, 1905, バンダイシモチ *Nectamia bandanensis* (Bleeker, 1854), スジイシモチ *Ostorhinchus cookii* (Macleay, 1881), ミスジテンジクダイ *Ostorhinchus taeniophorus* (Regan, 1908), ミスジテンジクダイ L 型 *Ostorhinchus* sp. L, ユカタイシモチ *Pristiapogon exostigma* (Jordan and Starks, 1906), カスリイシモチ *Pristiapogon kallopterus* (Bleeker, 1856), サビクダリボウズギスモドキ *Pseudamia hayashii* Randall, Lachner and Fraser, 1985, およびヒカリイシモチ *Siphamia tubifer* Weber, 1909 にそれぞれ同定される標本が確認された。これら 10 種の標本は、高知県における各種の初記録もしくは標本に基づく初記録であり、またバンダイシモチは分布の北限を更新するため、ここに報告する。

材料と方法

記載標本の計数・計測方法は中坊・中山 (2013) と林 (2013) に、各種の学名は馬淵ほか (2015) と本村 (2024) に、それぞれしたがった。標準体長は体長または SL と表記した。計測は両針コンパスとデジタルノギスを用いて

0.01 mm 単位まで行い、小数第 2 位を四捨五入した。標本の作製、登録、撮影、および固定は、本村 (2009) と同様の方法で行った。スジイシモチ属 *Ostorhinchus* Lacepède, 1802 の体側に見られる縦帯の表記について、Yoshida et al. (2010) などでは、体側背縁の縦帯を第 1 縦帯とするのに対し、林 (2013) などでは体側背縁の縦帯を数えず、その次の縦帯を第 1 縦帯としている。本報告では、林 (2013) の表記にしたがった。記載標本はすべて、高知大学理工学部海洋生物学研究室 (BSKU) に保管されている。本報告で用いた研究機関略号は以下のとおりである：BSKU (高知大学理工学部海洋生物学研究室)；INM-1 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館 動物資料)；KAUM (鹿児島大学総合研究博物館)；RMNH (ライデン国立自然史博物館：Rijksmuseum van Natuurlijke Historie, Leiden)。

Apogon crassiceps Garman, 1903

アカフジテンジクダイ (Fig. 1A)

標本 2 標本 (体長 26.8–29.4 mm)：BSKU 89072, 体長 29.4 mm, 土佐清水市 清水港, 2006 年 11 月 24 日；BSKU 132986, 体長 26.8 mm, 香南市夜須町手結山 住吉海岸, 2022 年 12 月 24 日, 手網, 熊木慧弥・松永 翼・高梨佑真・南耕太郎。

同定 記載標本は、吻端が丸い、側線上方横列鱗数が 1.5, 尾柄部側線上に不明瞭な縦帯があり、黒色素胞が二等辺三角形に分布する、体側鱗の後縁部が赤褐色 (生鮮写真がある BSKU 132986 のみ) などの特徴が、Yoshida et al. (2010), 林 (2013), および吉田 (2014) が示したアカフジテンジクダイ *A. crassiceps* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 本種は西太平洋に分布し、日本国内では伊豆諸島 (伊豆大島), 神奈川県, 宮崎県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (硫黄島, 黒島, 種子島, 屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (喜界島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島), および沖縄諸島 (沖縄島, 瀬底島, 渡嘉敷島, 久米島) からの記録がある (Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2014, 2019; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Motomura and Uehara, 2020; 田中ほか, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 吉郷, 2021; 工藤ほか, 2022; 出羽ほか, 2022; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 阿部ほか, 2024; 前田ほか, 2024)。本報告により、新たに高知県での分布も確認された。

採集地の環境 本種は、浅海 (水深 5.0 m 付近) のサンゴ礁域や岩礁域に生息する (林, 2013; 吉田・馬淵, 2022)。香南市夜須町住吉海岸産の個体 (BSKU 132986) は、夜間大潮干潮時に形成される水深 0.5 m ほどのタイドプール内の岩の窪みから採集された。また、同所では第 3

著者によってコミナトテンジクダイ *Apogon kominatoensis* Ebina, 1935 やミスジテンジクダイ (Fig. 1E：後述) などが確認された。

Foa fo Jordan and Seale, 1905

タイワンマトイシモチ (Figs. 1B, 2A)

標本 3 個体 (体長 16.0–35.8 mm)：BSKU 120201, 体長 35.8 mm, 土佐市宇佐町井尻 宇津賀, 2008 年 12 月 14 日；BSKU 136972, 体長 16.5 mm, BSKU 137225, 体長 16.0 mm, 安芸郡東洋町甲浦, 2024 年 6 月 30 日, 手網, 難波拓登。

同定 記載標本は、両顎に大きな犬歯状歯がない、側線は不完全で第 2 背鰭下にまでしか達しない、口蓋骨歯がある、頭部および体側に 5 本の不規則な暗色帯と白色斑がある、尾鰭基部にある 3 個の白色斑は暗色帯に含まれる (各色彩の特徴は、生時の写真がある BSKU 136972, 137225 のみ) などの特徴が、Fraser and Randall (2011) や林 (2013) が示したタイワンマトイシモチ *F. fo* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し、日本国内では静岡県, 三重県, 和歌山県, 日向灘, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (種子島, 屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (喜界島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 伊江島, 渡嘉敷島), 宮古諸島, および八重山諸島 (西表島, 与那国島) からの記録がある (Yoshida et al., 2010; Fraser and Randall, 2011; 林, 2013; 吉郷, 2014, 2021; 吉田, 2014, 2019, 2022; Iwatsuki et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; Fujiwara and Motomura, 2020; 和田ほか, 2021; 赤池ほか, 2021; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 古橋ほか, 2024)。本報告により、新たに高知県での分布も確認された。

採集地の環境 本種は沿岸内湾性で、アマモ場周辺に多いとされる (林, 2013)。BSKU 136972, 137225 は、コアマモ *Zostera japonica* の群生地から採集された。同所ではウミヒルモ *Halophila ovalis* も確認され、本種以外の魚類では、ウチウミマダラエソ *Saurida nebulosa* Valenciennes, 1850, カマスベラ *Cheilio inermis* (Forsskål, 1775), カミナリベラ *Stethojulis interrupta terina* Jordan and Snyder, 1902 などが採集された (難波拓登氏, 私信)。また、BSKU 120201 は採集地の詳細な環境は不明であるものの、閉鎖的な内湾である浦ノ内湾内で採集されたことから、林 (2013) が示した本種の生息環境と一致する。

Nectamia bandanensis (Bleeker, 1854)

バンダイシモチ (Figs. 1C, 2B)

標本 7 個体 (体長 66.6–79.2 mm, すべて幡多郡大月

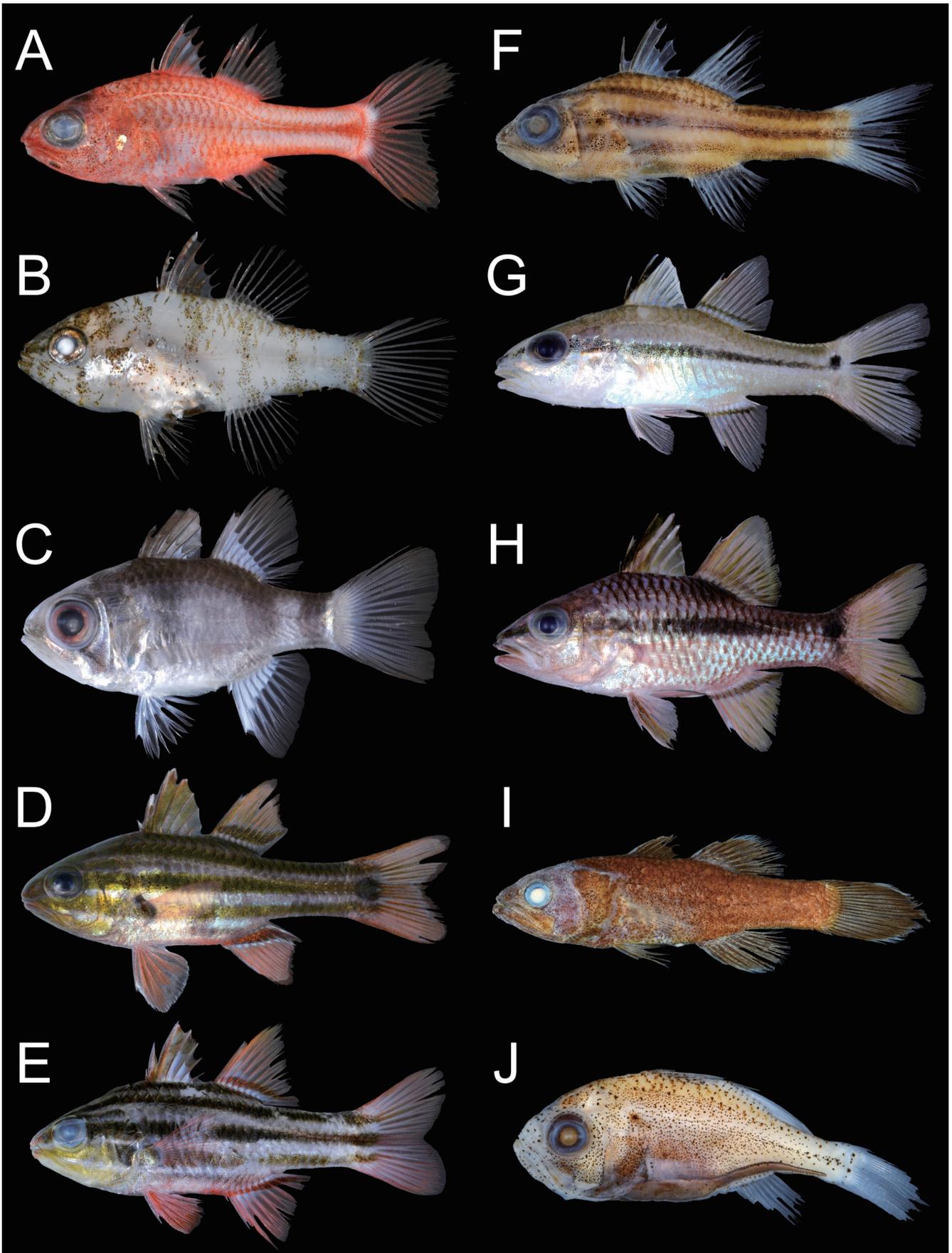


Fig. 1. Photographs of 10 species of apogonids from Kochi Prefecture, Japan. A: *Apogon crassiceps*, BSKU 132986, 26.8 mm SL, Konan City; B: *Foa fo*, BSKU 136972, 16.5 mm SL, Toyo Town, Aki District; C: *Nectamia bandanensis*, BSKU 134688, 72.6 mm SL, Kashiwa-jima island; D: *Ostorhinchus cookii*, BSKU 131178, 49.3 mm SL, Konan City; E: *Ostorhinchus taeniophorus*, BSKU 134967, 57.6 mm SL, Konan City; F: *Ostorhinchus* sp. L, BSKU 79706, 30.4 mm SL, Tosa-shimizu City; G: *Pristiapogon exostigma*, BSKU 134635, 45.6 mm SL, Kashiwa-jima island; H: *Pristiapogon kallopterus*, BSKU 134632, 71.5 mm SL, Kashiwa-jima island; I: *Pseudamia hayashii*, BSKU 102720, 75.7 mm SL, Sukumo City; J: *Siphamia tubifer*, BSKU 55272, 21.1 mm SL, Hime-shima island. A, C–E, G, H: fresh specimens; B, F, I, J: preserved specimens.



Fig. 2. Live individuals of three apogonids from Kochi Prefecture, Japan. A: *Foa fo*, BSKU 136972; B: *Nectamia bandanensis*, BSKU 134513; C: *Pristiapogon exostigma*, BSKU 134635; D: *Pristiapogon kallopterus*, BSKU 134632.

町柏島産): BSKU 134512, 体長 75.1 mm, 2023 年 9 月 2 日, 釣り, 平井秀典; BSKU 134513, 体長 71.8 mm, BSKU 134514, 体長 66.6 mm, 2023 年 8 月 15 日, 釣り, 難波拓登; BSKU 134688, 体長 72.6 mm, 2023 年 10 月 1 日, 釣り, 平井秀典・西村颯人. BSKU 137002, 体長 71.2 mm, BSKU 137027, 体長 78.6 mm, 2024 年 8 月 18 日, 釣り, 大西智也・田中貴晴・饗場空璃・武居佳穂; BSKU 137090, 体長 79.2 mm, 2024 年 9 月 19 日, 釣り, 森崎茉優・橋 皆希.

同定 記載標本は, 体高が体長の 42% 以上である, 頬の暗色斜帯は二等辺三角形で, 輪郭が不明瞭, 体側に側線を横断する 3 本の暗色横帯があり, 尾柄に位置する暗褐色横帯は側線より下方でも明瞭, 尾鰭は薄暗色で, 上縁と下縁に暗色帯がないなどの特徴が, Fraser (2008) や林 (2013) が示したバンダイシモチ *N. bandanensis* の標徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 本種は西太平洋に分布し, 日本国内では小笠原諸島 (父島), 宮崎県, 大隅諸島 (竹島, 種子島, 屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 瀬底島, 伊江島, 渡嘉敷島), 宮古諸島, および八重山諸島 (西表島, 与那国島) からの記録がある (Fraser, 2008; Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2014, 2019; 吉郷, 2014; Koeda et al., 2016b; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 吉野・瀬能, 2018; Mochida and Motomura, 2018; Motomura and Uehara, 2020; 村瀬ほか, 2021; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023). 本報告により, 新たに高知県での分布も確認された. また, これ

までの本種の北限記録は宮崎県東臼杵郡門川町であるため (村瀬ほか, 2021), 記載標本は本種の分布北限を更新する.

採集地の環境 本種は, サンゴ礁外縁やサボテングサ属 (*Halimeda*) の藻場, 礫底の水深 10–30 m 付近に生息する (Fraser, 2008; Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉野・瀬能, 2018). 記載標本は, 幡多郡大月町柏島の漁港の岸壁付近から釣獲された. 採集地の海底環境は, 巨礫を中心とした傾斜地で, 岸壁にはウミトサカ類やキサソゴ類も見られる (神田, 1999; 本研究). 同所での魚類相調査では, 他の本科魚類は, スダレヤライイシモチ *Cheilodipterus intermedius* Gon, 1993 (BSKU 137004 ほか), リュウキュウヤライイシモチ *Cheilodipterus macrodon* (Lacepède, 1802) (BSKU 135974 ほか), シボリ *Fowleria variegata* (Valenciennes, 1832) (BSKU 135975), アオスジテンジクダイ *Ostorhinchus aureus* (Lacepède, 1802) (BSKU 137091 ほか), オオスジイシモチ *Ostorhinchus doederleini* (Jordan and Snyder, 1901) (BSKU 137088 ほか), キンセンイシモチ *Ostorhinchus wassinki* (Bleeker, 1860) (BSKU 137193 ほか), および高知県初記録となるユカタイシモチ (Figs. 1G, 2C: 後述) とカスライシモチ (Figs. 1H, 2D: 後述) が得られた.

備考 林 (2013) が示したバンダイシモチの特徴は眼が大きく, 頭長が眼径の 2.2–2.3 倍としたが, 本報告で用いた記載標本の変異幅は 2.6–2.8 倍であり, 一致しなかった. 一方, Fraser (2008: table 3) が示した計測値から, 本種のネオタイプ (RMNH.PISC. 5584, 71.2 mm SL) の頭長を計算すると, 眼窩径の 2.6 倍となる (したがって, 頭長は眼径の 2.6 倍以上). このことから, 林 (2013) が示した

上記の特徴は、他種との有効な識別形質ではないと考えられる。

Ostorhinchus cookii (Macleay, 1881)

スジイシモチ (Fig. 1D)

標本 6個体 (体長 27.9–64.5 mm) : BSKU 87893, 体長 38.6 mm, 土佐市宇佐町竜 白ノ鼻, 2006年10月12日, 森田 仁・岡本沙知・兒玉夏樹; BSKU 99923, 体長 27.9 mm, 須崎市大谷 中ノ島, 2009年9月17日, 劔物健太; BSKU 101345, 体長 30.9 mm, 須崎市大谷 中ノ島, 2009年11月15日, 劔物健太; BSKU 106404, 体長 64.5 mm, 幡多郡黒潮町熊野浦, 2010年11月2日, スクーバ採集, 戸瀬憲人; BSKU 131178, 体長 49.3 mm, BSKU 131259, 体長 40.2 mm, 香南市夜須町手結山 塩谷海岸, 2021年11月21日, 水深 0.5–1.0 m, 手網, 井上裕太・熊木慧弥.

同定 記載標本は、尾柄中央に瞳孔大の黒色斑がある、体側に5本の縦帯がある、第2縦帯が第2背鰭起部直下付近で終わるなどの特徴が、Yoshida et al. (2010) や林 (2013) が示したスジイシモチ *O. cookii* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し、日本国内では小笠原諸島 (母島), 千葉県, 神奈川県, 静岡県, 山口県 (響灘), 五島列島, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (種子島, 屋久島, 口永良部島), トカラ列島 (口之島, 小宝島, 宝島), 奄美群島 (喜界島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 瀬底島, 伊江島, 奥武島, 渡嘉敷島, 久米島), 宮古諸島 (下地島), 八重山諸島 (石垣島, 西表島, 与那国島), および大東諸島 (南大東島) からの記録がある (Mabuchi et al., 2004; 坂井ほか, 2009; Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2014, 2019, 2022; 吉郷, 2014, 2021; 土井ほか, 2015; Koeda et al., 2016b; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 吉野・瀬能, 2018; Mochida and Motomura, 2018; 園山ほか, 2020; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024). 本報告により、新たに高知県における標本に基づいた記録が得られた。

備考 柏島の魚類相を調査した平田ほか (1996) ではスジイシモチは未記録であったが、坂井ほか (2009) は平田智法氏の未発表データとして、その後に同所での調査で確認されたと述べた。したがって、記載標本は、本種の高知県における確かな記録となる。

Ostorhinchus taeniophorus (Regan, 1908)

ミスジテンジクダイ (Fig. 1E)

標本 14個体 (体長 26.6–68.6 mm) : BSKU 73259, 体

長 31.5 mm, 土佐清水市養老, 2004年9月16日, 島田昌宏; BSKU 74078 (2標本), 体長 26.6–45.1 mm, 土佐清水市養老, 2004年11月26日; BSKU 79655, 体長 34.4 mm, 土佐清水市 清水港, 2006年7月14日; BSKU 88561, 体長 68.6 mm, 土佐清水市 清水港, 2006年10月26日; BSKU 97096, 体長 43.0 mm, 須崎市浦ノ内下中山 白鷺, 2008年12月11日, 山本俊介; BSKU 101169 (2標本), 体長 43.4–53.6 mm, 土佐市宇佐町井尻, 2009年11月5日, 山本俊介; BSKU 106372, 体長 59.8 mm, 土佐清水市養老, 2011年11月24日, 高橋佳大; BSKU 131179, 体長 31.9 mm, BSKU 131180, 体長 47.6 mm, BSKU 131223, 体長 50.6 mm, 香南市夜須町手結山 塩屋海岸, 2021年11月21日, 水深 0.5–1.0 m, 手網, 熊木慧弥・井上裕太; BSKU 134966, 体長 51.9 mm, BSKU 134967, 体長 57.6 mm, 香南市夜須町手結山 住吉海岸, 2023年11月27日, 水深 0.5 m, 手網, 松永 翼.

同定 記載標本は、体側にあるすべての縦帯が暗褐色または濃褐色、第2縦帯が鰓蓋上端付近で終わる、第2縦帯の後方は第1縦帯に達しない、体側中央の第3縦帯が尾柄後端で終わり、末端は1暗色斑状となるなどの特徴が、Yoshida et al. (2010) や林 (2013) が示したミスジテンジクダイ *O. taeniophorus* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し、日本国内では小笠原諸島 (父島, 南鳥島), 伊豆諸島 (伊豆大島), 千葉県, 神奈川県, 静岡県, 和歌山県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (硫黄島, 黒島, 種子島, 屋久島, 口永良部島), 五島列島, 奄美群島 (喜界島, 奄美大島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (渡嘉敷島), および八重山諸島 (西表島, 与那国島) からの記録がある (Mabuchi et al., 2004; Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2014, 2019, 2022; Koeda et al., 2016b; Tose et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 吉郷, 2021; 工藤ほか, 2022; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024). 本報告により、新たに高知県での分布も確認された。

採集地の環境 本種は内湾の礫底や、浅海の岩礁およびサンゴ礁に生息することが知られる (林, 2013). 香南市夜須町の塩谷海岸と住吉海岸で採集された5個体 (BSKU 131179, 131180, 131223, 134966, 134967) は、夜間の大潮干潮時に形成されるタイドプール内と波打ち際の岩場周辺から得られた。また、両所において、第3著者が記載標本以外にも本種の複数個体を確認した。加えて、塩谷海岸では上記のスジイシモチ (BSKU 131178, 131259: Fig. 1D) が得られた。

備考 阿部ほか (2024: fig. 4F) がタスジイシモチ *Ostorhinchus novemfasciatus* (Cuvier, 1828) とした口永良部

島産の標本写真 (KAUM-I. 175185, 23.7 mm SL) は、林 (2013) が示したタスジイシモチの特徴である第1・3縦帯が尾柄後端を越えて尾鰭に達することは一致するが、体側の第2縦帯が尾鰭後端に達する、体側の第2縦帯の幅が不均一といった特徴が一致しない。一方、Yoshida et al. (2010) と林 (2013) が示したミスジテンジクダイの特徴である体側にあるすべての縦帯が暗褐色または濃褐色、第2縦帯が鰓蓋上端付近で終わる、第2縦帯の後方が第1背鰭下方の第1縦帯まで達しない、体側中央の第3縦帯末端が1暗色斑状となることから、写真個体は本種の誤同定と考えられる。

Ostorhinchus sp. L

ミスジテンジクダイ L 型 (Fig. 1F)

標本 2個体 (体長 30.4–56.8 mm) : BSKU 61962, 体長 56.8 mm, 香南市夜須町手結山, 2002年12月18日, スクーバ採集, 遠藤広光・平松 亘・野川悠一郎; BSKU 79706, 体長 30.4 mm, 土佐清水市 清水港, 2006年7月20日。

同定 記載標本は、体側にあるすべての縦帯が暗褐色または濃褐色、第2縦帯が鰓蓋上端付近で終わる、体側中央の第3縦帯が尾柄部後端を通り、尾鰭後端まで延長する、末端は1暗色斑状にならないなどの特徴が、Yoshida et al. (2010) や林 (2013) が示したミスジテンジクダイ L 型 *Ostorhinchus* sp. L の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 日本国内では静岡県, 愛媛県, 大隅諸島 (屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (徳之島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 瀬底島), および八重山諸島 (西表島) からの記録がある (Mabuchi et al., 2004; Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2014, 2019; Mochida and Motomura, 2018; 吉郷, 2021)。本報告により、新たに高知県での分布も確認された。

備考 Yoshida et al. (2010) は、本種の体側にある第2縦帯の後部は上方に伸長し、第1縦帯に達するとした。一方で記載標本は、第2縦帯の後部が不明瞭 (BSKU 61962), もしくは第2縦帯の後部は上方に伸長せずに第1縦帯に達する (BSKU 79706) 点で、前記した特徴とはやや異なる。しかし、これらを除いた上記の標徴は一致することから、記載標本の色彩は種内変異もしくは標本の保存状態に起因すると考えられる。

Pristiapogon exostigma (Jordan and Starks, 1906)

ユカタイシモチ (Figs. 1G, 2C)

標本 BSKU 134635, 体長 45.6 mm, 幡多郡大月町柏島, 2023年10月18日, 釣り, 岡村恭平・和田一歩。

同定 記載標本は、上顎後端が眼の後縁に達しない、体側に1暗色縦帯がある、体長が体高の3.1倍で体高が低い、第2背鰭基底部に1暗色鞍状斑がない、尾柄部の縦帯より上に瞳孔より小さい黒色斑がある、体は銀白色などの特徴が、Yoshida et al. (2010) や林 (2013) が示したユカタイシモチ *P. exostigma* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し、日本国内では和歌山県, 愛媛県, 福岡県, 大隅諸島 (竹島, 種子島, 屋久島), トカラ列島 (中之島, 小宝島), 奄美群島 (喜界島, 奄美大島, 与路島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 伊江島, 渡嘉敷島), 宮古諸島, 八重山諸島 (石垣島, 西表島, 与那国島), および大東諸島 (南大東島) からの記録がある (坂井ほか, 2009; Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2014, 2019; Koeda et al., 2016a, b; Tose et al., 2017; Nakae et al., 2018; 吉野・瀬能, 2018; Mochida and Motomura, 2018; Fujiwara and Motomura, 2020; Motomura and Uehara, 2020; Jeong and Motomura, 2021; 吉郷, 2021; Abe et al., 2023; Motomura, 2023)。本報告により、新たに高知県での分布も確認された。

備考 本種の生時の色彩は、体側の暗色縦帯や尾柄部の黒色斑がやや不明瞭であるが、これらの形質は固定後、明瞭に出現した (Figs. 1G, 2C)。

本種は岩礁域に単独で生息することが知られており (林, 2013; 吉野・瀬能, 2018), 記載標本も同様であった (採集地の環境の詳細は、バンダイシモチの項を参照)。また、高知県沿岸の魚類相調査において、本種が得られたのは当該標本のみであることから、黒潮によって南方から高知県沿岸に輸送され、偶発的に出現したのと考えられる。

Pristiapogon kallopterus (Bleeker, 1856)

カスリイシモチ (Figs. 1H, 2D)

標本 14個体 (体長 37.6–95.8 mm) : BSKU 61966, 体長 57.1 mm, 香南市夜須町手結山, 2002年12月18日, スクーバ採集, 遠藤広光・平松 亘・野川悠一郎; BSKU 111620, 体長 60.2 mm, 宿毛市沖の島町母島 古屋野, 2013年9月25日, 釣り, 山川 武ほか; BSKU 131443, 体長 37.6 mm, 土佐市宇佐町宇佐, 2021年12月21日, 水深 1.0 m, 手網, 高梨佑真; BSKU 134632, 体長 71.5 mm, BSKU 134633, 体長 66.4 mm, BSKU 134634, 体長 40.9 mm, 幡多郡大月町柏島, 2023年10月18日, 釣り, 岡村恭平・和田一歩; BSKU 134666, 体長 77.2 mm, 幡多郡大月町柏島, 2023年10月22日, 釣り, 橋 皆希・岡村恭平; BSKU 134800, 体長 74.4 mm, 幡多郡大月町柏島, 2023年11月13日, 釣り, 橋 皆希・岡村恭平・松永 翼; BSKU 135043, 体長 86.1 mm, 幡多郡大月町一切, 2024年

1月6日, 水深5.0 m, 釣り, 中垣内颯大; BSKU 135976, 体長84.8 mm, 幡多郡大月町柏島, 2024年4月28日, 釣り, 橘 皆希・岡村恭平・松永 翼・太田 翔・奥田蒼史; BSKU 136305, 体長70.1 mm, 幡多郡大月町柏島, 2024年4月6日, 水深1.0 m, 手網, 西村颯人; BSKU 136970, 体長89.4 mm, 幡多郡大月町柏島, 2024年8月7日, 釣り, 橘 皆希・饗場空璃・森崎茉優; BSKU 136981, 体長92.8 mm, 幡多郡大月町柏島, 2024年8月11日, 釣り, 森崎茉優・橘 皆希・小西隆之介; BSKU 137192, 体長95.8 mm, 幡多郡大月町柏島, 2024年10月6日, 釣り, 橘 皆希・岡村恭平・高梨佑真・太田 翔.

同定 記載標本は, 上顎後端が眼の後縁に達しない, 体側に1暗色縦帯がある, 体高が高く, 体長が体高の2.6–2.8倍 (BSKU 131443を除く), 第2背鰭基底部に1暗色鞍状斑がある, 第1背鰭前部の鰭膜が黒色, 尾柄部に1黒色斑があり側線の上部に位置する, 体が桃色みを帯びた淡褐色などの特徴が, Yoshida et al. (2010) や林 (2013) が示したカスリイシモチ *P. kallopterus* の標徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はインド・太平洋に広く分布し, 日本国内では小笠原諸島, 伊豆諸島 (伊豆大島, 八丈島), 茨城県, 静岡県, 和歌山県, 宮崎県, 大隅諸島 (竹島, 硫黄島, 黒島, 種子島, 屋久島, 口永良部島), 奄美群島 (喜界島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 伊江島, 渡嘉敷島), 宮古諸島 (宮古島), 八重山諸島 (西表島, 与那国島), および大東諸島 (南大東島) からの記録がある (Yoshida et al., 2010; 林, 2013; 吉田, 2014, 2019; Koeda et al., 2016b; Tose et al., 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 吉野・瀬能, 2018; Mochida and Motomura, 2018; Fujiwara and Motomura, 2020; 藤原ほか, 2020; 村瀬ほか, 2021; Jeong and Motomura, 2021; 吉郷, 2021; Abe et al., 2023; Motomura, 2023; 本田ほか, 2024; 外山ほか, 2024). 本報告により, 新たに高知県での分布も確認された.

備考 記載標本のうち, BSKU 131443の体高はやや低く, 体長が体高の3.0倍であった. これは, 林 (2013) が示した変異幅 (2.6–2.9倍) を外れる. しかし, 当該標本は体長が37.6 mmと小型個体であり, 林 (2013) が示した範囲に近い値であること, そして外山ほか (2024) が報告した小型個体 (INM-1-123904, 体長42.9 mm, INM-1-123905, 体長40.2 mm) も変異幅から外れるが, 成長段階に起因するものと述べたことから, 本個体も同様に成長変異によるものと判断した.

本種の生時の色彩は, 第1背鰭前部の黒色鰭膜が確認できたが, 胸鰭上部から尾柄中央にかけての暗色縦帯や尾柄部の1黒色斑, 第2背鰭基底部の暗色鞍状斑は不明瞭であった (Fig. 2D). 固定後に, これらの形質は明瞭に出現し,

特に尾柄部の1黒色斑は顕著である (Fig. 1H).

本種は, 2023年10月以降, 柏島周辺で継続して採集と確認がされていたことや, 2024年に採集された記載標本は, 体長が大きい傾向にあることから, 黒潮により南方から高知県沿岸に輸送され, その後, 越冬したことが示唆される. 加えて, 2023年10–11月にかけて行われた柏島での魚類相調査において, 幅広い体長の標本が得られたことから (40.9–77.2 mm SL; 採集地の環境の詳細は, バンダイシモチの項を参照), 再生産に至っている可能性もある.

Pseudamia hayashii Randall, Lachner and Fraser, 1985 サビクダリボウズギスモドキ (Fig. 1I)

標本 BSKU 102720, 体長75.7 mm, 宿毛市小筑紫町栄喜, 2009年10月31日, 木下幸紀.

同定 記載標本は, 尾鰭に黒色斑がない, 体が大きな円鱗で被われ, 前鼻孔の皮弁が短い, 眼窩間域が凸状, 眼の後方に1黒色斑がない, 発達した鰓耙数が8などの特徴が, Randall et al. (1985) や林 (2013) が示したサビクダリボウズギスモドキ *P. hayashii* の標徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 本種は西太平洋に分布し, 日本国内では静岡県, 和歌山県, 鹿児島県本土, 奄美群島 (奄美大島), 沖縄諸島, および宮古諸島 (宮古島) からの記録がある (Randall et al., 1985; 林, 2013; Tose et al., 2017; Nakae et al., 2018; 吉田, 2019, 2022; 本田ほか, 2024). また, 写真や標本に基づく記録はないものの, 屋久島においても本種が確認されている (Yoshida et al., 2010). 本報告により, 新たに高知県での分布も確認された.

備考 本種は水深64 m以浅でみられ, 海底洞窟やサンゴ礁の岩棚, 岩穴などの奥に潜む (Randall et al., 1985; 林, 2013; 吉田, 2022). ヌメリテンジクダイ属 *Pseudamia* Bleeker, 1865の多くは本種と同様の環境に生息するため, 採集する機会に乏しく, 標本を得ることが困難である (Randall et al., 1985; Randall and Ida, 1993; 林, 2013).

Siphamia tubifer Weber, 1909

ヒカリイシモチ (Fig. 1J)

標本 2個体 (体長19.0–21.1 mm): BSKU 55261, 体長19.0 mm, BSKU 55272, 体長21.1 mm, 宿毛市沖の島町鶴来島 姫島, 2001年7月10日, 片山英里.

同定 記載個体は, 咽頭部から臀鰭基底にかけて発光腺がある, 第1背鰭が7棘, 胸鰭条数が15などの特徴が, Gon and Allen (2012) や林 (2013) が示したヒカリイシモチ *S. tubifer* の標徴とよく一致したため, 本種に同定された.

分布 本種はインド・西太平洋に広く分布し, 日本国

内では小笠原諸島（父島・南島）、伊豆諸島（八丈島）、日向灘、鹿児島県本土、大隅諸島（屋久島）、奄美群島（奄美大島、沖永良部島）、沖縄諸島（沖縄島、屋我地島、瀬底島、伊江島、渡嘉敷島）、および八重山諸島（西表島）からの記録がある（Yoshida et al., 2010; Gon and Allen, 2012; 林, 2013; 吉郷, 2014, 2021; 吉田ほか, 2017; Iwatsuki et al., 2017; Nakae et al., 2018; 吉野・瀬能, 2018; 吉田, 2019, 2022; 赤池ほか, 2021; 吉田・馬淵, 2022）。ただし、屋久島の記録については不確実とされる（Yoshida et al., 2010; 吉田ほか, 2017）。Tose et al. (2017)は高知県柏島、横浪半島、および和歌山県東牟婁郡串本町で水中目視調査を行い、柏島で本種の分布を確認した。したがって、本報告により、新たに高知県における標本に基づいた記録が得られた。

備考 本種は水深 0.5–100 m で採集され、ガンガゼ属 (*Diadema*) と共生し、1 個体のガンガゼ属の棘の間で群れを作るが、オニヒトデ *Acanthaster planci* でも同様に群れをなすことが知られている（Gon and Allen, 2012; 林, 2013）。

本種は全長 2.5 cm 以上で成熟することが知られ（林, 1984）、全長 27.0 mm の BSKU 55272 は成魚と判断される。加えて、柏島では本種の再生産が確認されている（Tose et al., 2017: fig. S2）。吉田ほか（2017）は、薩摩半島西側の個体群について、4–5 月に産卵期を迎えると述べた。一方、柏島で撮影された個体は、6 月下旬に口内保育を行っていたため（Tose et al., 2017: fig. S2）、高知県西南部の個体群では、6 月前後が産卵期と考えられる。

本種の分布は上記のとおりで、本州沿岸における記録はない。しかし、高知県沿岸では本種が再生産していること、ガンガゼ属が房総半島以南の太平洋沿岸に分布すること（張, 2019）を考慮すると、房総半島から紀伊半島にかけての黒潮流域からも、今後本種の標本が得られる可能性がある。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、香川淡水魚研究会の難波拓登氏、高知県立足摺海洋館の大西智也氏、田中貴晴氏、高知大学理工学部海洋生物学研究室の熊木慧弥氏、高梨佑真氏、森崎菜優氏、饗場空璃氏、太田 翔氏、奥田蒼史氏らと、高知大学農林海洋科学部の平井秀典氏、中垣内颯大氏、西村颯人氏、高知大学大学院総合人間自然科学研究科（当時）の南耕太郎氏、近畿大学大学院農学研究科（当時）の和田一步氏、東海大学海洋学部の武居佳穂氏、および岡山理科大学生物地球学部の小西隆之介氏には、標本や写真資料の収集などにご協力いただいた。Ichthy 編集委員の吉田朋弘氏と匿名の査読者には、原稿に対し有益なご助言を賜った。以上の方々に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Abe, K., D. Sasaki, J. Maclaine and S. Kimura. 2023. First Northwest Pacific record of the apogonid fish, *Pristiapogon taeniopterus* (Actinopteri: Kurtiformes) from Minamidaito Island, Okinawa Prefecture, Japan. *Species Diversity*, 28: 117–122. [URL](#)
- 阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024. 口永良部島から得られた南限更新記録 2 種を含む魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 1–14. [URL](#)
- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビヨル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健太郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖永良部島初記録の魚類 66 種、およびサザンプラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 18–35. [URL](#)
- 張 成年. 2019. 日本沿岸に出現するガンガゼ属 3 種の見分け方. *水生動物*, 2019: AA2019-9, 1–7. [URL](#)
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・畠中柚菜・本村浩之. 2022. 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類 86 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 27: 15–31. [URL](#)
- 土井啓行・久志本鉄平・園山貴之・石橋敏章・西川真登・酒井治己. 2015. 山口県響灘における小型定置網の漁獲物. *水産大学校研究報告*, 63: 127–143. [URL](#)
- Fraser, T. H. 2008. Cardinalfishes of the genus *Nectamia* (Apogonidae, Perciformes) from the Indo-Pacific region with descriptions of four new species. *Zootaxa*, 1691: 1–52.
- Fraser, T. H. and G. R. Allen. 2010. Cardinalfishes of the genus *Apogonichthyoides* Smith, 1949 (Apogonidae) with a description of a new species from the West-Pacific region. *Zootaxa*, 2348: 40–56.
- Fraser, T. H. and J. E. Randall. 2011. Two new species of *Foa* (Apogonidae) from the Pacific Plate, with redescription of *Foa brachygramma* and *Foa fo*. *Zootaxa*, 2988: 1–27.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73. [URL](#)
- 藤原恭司・上原航知・松岡 翠・Kunto Wibowo・本村浩之. 2020. 琉球列島と奄美群島初記録種を含む沖永良部島初記録の魚類 50 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 30–40. [URL](#)
- 古橋龍星・赤池貴大・是枝伶旺・橋本慎太郎・樋口聡文・金井聖弥・潮上太郎・中村亮太・清水直人・本村浩之. 2024. 与那国島から得られた魚類 43 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 47: 9–20. [URL](#)
- Gon, O. and G. R. Allen. 2012. Revision of the Indo-Pacific cardinalfish genus *Siphamia* (Perciformes: Apogonidae). *Zootaxa*, 3294: 1–84.
- Greenfield, D. W., R. C. Langston and J. E. Randall. 2005. Two new cardinalfish species of the Indo-Pacific fish genus *Zoramia* (Apogonidae). *Proceedings of the California Academy of Sciences, Fourth Series*, 56: 625–637. [URL](#)
- 林 公義. 1984. ヒカリイシモチ, p. 140, pl. 129–J. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫（編）日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科, pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相 行動と生態に関する記述を中心として. 高知大学海洋生物教育センター研究報告, 16: 1–177.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録（改訂）. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, 53: 127–218. [URL](#)
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. [URL](#)

- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116. [URL](#)
- 神田 優. 1999. 四国西南端の島・柏島の魚類相と水中景観. くろしお: 高知大学黒潮圏研究所報, 14: 15–23. [URL](#)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苔 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp. [URL](#)
- Koeda, K., T. Fujii, S. Koeda and H. Motomura. 2016a. Fishes of Yoro-jima and Uke-jima islands in the Amami Islands: 89 new specimen-based records. *Memoirs of Faculty of Fisheries, Kagoshima University*, 65: 1–20. [URL](#)
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016b. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *The Kagoshima University Museum, Kagoshima*. vi + 120 pp. [URL](#)
- 工藤孝浩・山田和彦・三井翔太・門田高太・瀬能 宏. 2022. 三浦半島南西岸魚類目録. *神奈川自然誌資料*, 43: 97–142. [URL](#)
- Mabuchi, K., T. H. Fraser, H. Song, Y. Azuma and M. Nishida. 2014. Revision of the systematics of the cardinalfishes (Percomorpha: Apogonidae) based on molecular analyses and comparative reevaluation of morphological characters. *Zootaxa*, 3846: 151–203. [URL](#)
- 馬淵浩司・林 公義・T. H. Fraser. 2015. テンジクダイ科の新分類体系にもとづく亜科・族・属の標準和名の提唱. *魚類学雑誌*, 62: 29–49. [URL](#)
- Mabuchi, K., N. Okuda and M. Nishida. 2004. Genetic differentiation between two color morphs of *Apogon taeniophorus* from southern Japan. *Ichthyological Research*, 51: 180–183.
- 前田知範・久木田直斗・是枝伶旺・本村浩之. 2024. 鹿児島県と宮崎県から得られた九州沿岸初記録のアカフジテンジクダイ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 25–30. [URL](#)
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80. [URL](#)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250. [URL](#)
- 本村浩之. 2024. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 27. [URL](#)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125. [URL](#)
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2021. 新・門川の魚図鑑 ひむかの海のさかなたち. 宮崎大学農学部付属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- 中坊徹次・中山耕至. 2013. 魚類概説 第3版, pp. 3–30. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361. [URL](#)
- Randall, J. E. and H. Ida. 1993. *Pseudamia rubra*, a new cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the Ogasawara Islands. *Japanese Journal of Ichthyology*, 40: 11–14. [URL](#)
- Randall, J. E., E. A. Lachner and T. H. Fraser. 1985. A revision of the Indo-Pacific apogonid fish genus *Pseudamia*, with descriptions of three new species. *Indo-Pacific Fishes*, 6: 1–23, pl. 1.
- 坂井陽一・門田 立・清水則雄・坪井美由紀・山口修平・中口和光・郷 秋雄・増井義也・橋本博明・具島健二. 2009. トカラ列島口之島, 中之島, 平島, 小宝島における浅海魚類相 2002年—2007年の潜水センサス調査から. *広島大学大学院生物圏科学研究科紀要*, 48: 19–35. [URL](#)
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152. [URL](#)
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144種の追加記録. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 49: 107–118. [URL](#)
- Tose, K., T. Hirata, Y. Kotera, M. Kanda and Y. Nakamura. 2017. Occurrence and reproduction of tropical fishes in ocean warming hotspots of Japanese temperate reefs. *Environmental Biology of Fishes*, doi: 10.1007/s10641-017-0590-5 (Mar. 2017), 100: 617–630 (June 2017).
- 外山太郎・棟方航平・山崎和哉. 2024. 茨城県から得られた北限記録の魚類 14種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 48: 5–13. [URL](#)
- 和田英敏・古橋龍星・山田守彦・藤井琢磨・吉田朋弘・Kunto Wibowo・荒木萌里・伊藤大介・赤池貴大・中川龍一・渋谷駿太・是枝伶旺・出羽優風・餅田 樹・本村浩之. 2021. 徳之島初記録の魚類 122種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 35–52. [URL](#)
- 吉田朋弘. 2014. テンジクダイ科, pp. 186–211. 本村浩之・松浦啓一(編) 奄美群島最南端の島—与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 吉田朋弘. 2019. テンジクダイ科 Apogonidae, pp. 116–145. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 吉田朋弘. 2022. テンジクダイ科, pp. 106–113. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之(編) 薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 吉田朋弘・伊東正英・本村浩之. 2017. 鹿児島県薩摩半島西岸から得られたテンジクダイ科ヒカリイシモチ. *Nature of Kagoshima*, 43: 117–121. [URL](#)
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 27–64. In Motomura, H. and K. Matsuura (eds.) *Fishes of Yaku-shima Island National Museum of Nature and Science*, Tokyo. [URL](#)
- 吉田朋弘・馬淵浩司. 2022. テンジクダイ科, pp. 248–253. 中坊徹次(編) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館精緻な写真と詳しい解説 (第6刷 補訂). 小学館, 東京.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuana*, 9: 1–153. [URL](#)
- 吉郷英範. 2021. 庄原市立比和自然科学博物館収蔵のテンジクダイ科魚類 (硬骨魚綱). *比和科学博物館研究報告*, 63: 1–41, pls. 1–6.
- 吉野雄輔・瀬能 宏. 2018. 改訂版 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.